

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104514
法人名	医療法人 慈孝会
事業所名	グループホームふくずみ
所在地	松山市福角町甲616-1
自己評価作成日	平成22年7月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お一人お一人を大切に和と穏やかさを大切に、という理念の基、日々お世話をさせていただいています。ホームは静かな住宅地で田園に囲まれ、併設のデイサービスとは、廊下を経てつながっており、行き来が自由で開放感がある作りになっています。趣味や行事などデイサービス利用者様と一緒に活動することが出来ます。中庭や玄関には季節の花や野菜を作っています。散歩やドライブ、買い物なども出来る限り取れいれています。日々、お一人お一人に安心して楽しく暮らしていただけるよう努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

家族会では「アルツハイマー病」等についての小冊子をお配りして、認知症についての説明をされた。毎月ご家族の来訪時には、利用者ご本人の日々の記録等を見てもらいながら、ご本人の日常の様子を報告されている。遠方のご家族には、毎月写真入りの手紙を送付されている。事業所の畑の世話に来てくれるご家族もある。事業所では、牽き立てのコーヒーをご家族にお出ししており、コーヒーを楽しみにされているご家族もあるようだ。  
事業所の畑で作っている野菜を利用者と一緒に収穫し、調理されている。利用者は食材の皮をむいたり、食器を洗ったり、拭いたり、できることを無理なく行えるよう支援されている。朝食は、白飯、お粥、パンと主食を選べるようになっている。調査訪問時には、畑で収穫したミニトマトを氷を入れた器に乗せて出してもらった。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 小規模多機能施設ふくずみ

(ユニット名) グループホームふくずみ

記入者(管理者)

氏名 大久朱実

評価完了日 22年 7月 16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着を踏まえた理念としており、ミーティングや会議等に全員で復唱し、共有・実践に繋げている。問題があったとき理念に立ち返ることで方向性が見え、解決に繋がっている。 (外部評価) 事業所は「お一人お一人を大切に、和と穏やかさを大切に」という理念を掲げておられる。又、行動指針には「地域に解け込み、地域に根ざすグループホーム作りに努めます」と掲げ、管理者や職員は「地域の方に気軽に来ていただけるような場所にしたい」「認知症サポーター養成講座も開催したい」と具体的な取り組みについて話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議などに地域の人に参加していただいている。地域の祭りなどにも参加している。また消防訓練時には近所の方にも参加協力を呼びかけている。日常的には買い物・散歩・ドライブ等により交流を深めている。 (外部評価) 事業所の隣の公民館の草ひきを利用者と職員でされたり、地方祭前には、事業所の駐車場を子供みこしの練習場所にお貸ししている。利用者は、その様子を楽しみに見学されるようだ。地域の「納涼祭」には、職員が出店を出す予定になっており、利用者も楽しみに出かけるようだ。会議に参加して下さっている地域の方が、事業所に立ち寄ってくださることもある。併設のデイサービスで行われる陶芸や書道の教室、又、音楽療法に参加して、通って来られる方達と楽しい時間を過ごされている。	管理者は、地域の方に気軽に事業所に来ていただけるよう、事業所の行事に案内したいと考えておられた。さらに「地域に解け込み、地域に根ざすグループホーム作り」を目指し、地域の方達と一緒に活動するような機会を増やしていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会など地域の人々の参加があり、認知症の人の支援の方法や理解をしていただけるよう働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実                      際、評価への取り組み状況等について報告                      や話し合いを行い、そこでの意見をサービ                      ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      各利用者の状況や行事・レクリエーション、防災訓                      練、ヒヤリハット、事故防止対策、外部評価の取り組                      み報告等行い、意見を頂きサービス向上に活かしてい                      る。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議は、月の最終月曜日、14時から開催す                      ることに決めておられる。毎回テーマに沿って会議をす                      すめておられ、事業所のヒヤリハット事例やインフル                      エンザ対策等を報告して話し合われたり、避難訓練を                      行い地域の方からもご意見や感想をいただいている。                      現在、派出所の方にも参加のお願いをされている。</p>	<p>事業所では、時には家族会を兼ねた運営推進会議を行                      い、会議にご家族の参加を増やしていきたいと考えて                      おられた。ご家族や地域の方に関心を持ってもらえ                      るような会議内容の工夫や、参加しやすいような工夫を                      重ね、いろいろな方が事業所のケアサービスの質向上                      の取り組みにかかわってくださるよう、すすめていか                      れてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、                      事業所の実情やケアサービスの取組みを積                      極的に伝えながら、協力関係を築くように                      取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議には必ず案内をしており、実情報告を行                      い、アドバイスを頂いている。また、5月25日には実地                      指導により指導を頂いた。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議時には、市の担当者に介護保険や生活保                      護受給者の支援について質問して、教えてもらっ                      たり、市社協主催の研修の案内をいただいている。</p>	<p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準におけ                      る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく                      理解しており、玄関の施錠を含めて身体                      拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」                      を掲示している。普段は玄関を開放しているが、精神                      状況に応じて必要と判断した場合一時的に施錠をして                      いる。研修やミーティングなどにも参加し理解を深め                      職員全員で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)                      時々、職員と併設のデイサービスで過ごされるような                      方もおられる。現在、職員が調理をされたり、外出、                      他の利用者のケアにかかっておられる等、職員の手が                      足りないような時には、玄関に鍵を掛けられるよう                      だ。玄関前の段差はブロックを積んで階段を作ってお                      られる。</p>	<p>事業所玄関から外に出る際の環境について、利用者の                      立場に立ち、事業所で配慮できることはないか、現場                      職員の意見やご家族・地域の方の意見も聞き、法人も                      含めて話し合う機会にされてはどうだろうか。さら                      には、玄関に鍵を掛けなくてもすむような支援につ                      いて、職員で工夫を重ねていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、勉強会を行っている。高齢者虐待防止法を掲示し、常に意識してケアにあたり、防止に努めている。虐待が見過ごされないよう職員間で日ごろから話し合ったり、点検している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在後見人等の利用をされているかたはいないが、制度を理解し、ケースに応じて利用していく。研修報告会に参加し資料に基づいて学んだ。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前から見学や説明等随時行い、契約時にも十分説明し、理解、納得していただき、快適に安心して生活していただけるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関前に意見箱を設置している。年に2回家族会を持っている。また月々の支払い時や面会時などにも意見や要望を言っていただけよう配慮している。  (外部評価) 家族会では「アルツハイマー病」等についての小冊子をお配りして、認知症についての説明をされた。毎月ご家族の来訪時には、利用者ご本人の日々の記録等を見てもらいながら、ご本人の日常の様子を報告されている。遠方のご家族には、毎月写真入りの手紙を送付されている。事業所の畑の世話に来てくれるご家族もある。事業所では、牽き立てのコーヒーをご家族にお出ししており、コーヒーを楽しみにされているご家族もあるようだ。現在、事業所たより「ふくずみの和」を年に1~2回発行しておられるが、今後は、発行回数を増やしていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>日常のケアの中で提案や疑問、意見などを率直に話し合いながら行なっており、月に1度のミーティングや運営委員会で更に意見が反映されるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、それぞれ担当を決めてレクレーションの企画をしたり、写真を撮る担当等、個々が責任を持って取り組むようにされている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>センター長が年2回面談を実施し意見や要望を聞き意思の疎通を図っている。現場の細かな状況や、変化までは把握しがたく、問題は多いと思われる。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>グループホームの目標として年に2回は研修に必ず参加することをあげている。より質の高いケアに努め、職員一人一人の持ち味を引き出して活かせるよう努めている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内の勉強会を積極的に行っており、交流も図っている。相互間の訪問を行うことで、部署間の働きも理解し合い、より良い連携を築けるよう努めている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族からの聞き取り、医師や関係スタッフからの情報提供・意見書・看護介護要約等からの情報の把握に努め、本人をよく知り今までの生活を出来るだけ維持する事で安心して暮らして頂けるよう努めている。一週間以内でプランを立て統一したケアをしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居される前から見学してもらい、情報交換し合う。入居後は本人が安心して暮せるよう出来るだけ来所して頂き、安心して頂けるよう関係作りに努めている。随時不安や、要望を聞き家族にも安心していただけるように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族、関係機関のの声を聴き診療情報提供・看護介護要約・意見書等から必要な支援を見極めるよう努めている。必要に応じ他のサービスについても説明・案内をしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>これまでの人生で培ってきた経験や知識などを教えていただいたり、出来る限りできることを提供し、共に楽しみ暮らせるよう努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>できる限り家族との交流が持てるよう、声かけや状況報告をし、面会・行事等に一緒に参加してもらえよう呼びかけている。また家族での外出や外食などにもしていただいている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みのある人や物などを知る。ご家族に協力を得、使われていたタンス・写真・小物などを部屋に、持ってきていただいたり馴染みの方に連絡や面会に来ていただいたりしている。また懐かしい場所などをお聴きし、ドライブなどに出かけたりしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者のご自宅近くに咲く「菜の花」を見に行かれたり、海を見に出かけ、昔、住んでいたところを懐かしがられる方もある。友人が訪ねてくれる方もおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々に応じたライフスタイルを尊重しながら、行事や外出時には共に暮す仲間として関係性や席などを配慮し関わりを深めれるよう努めている。普段の日でも挨拶やちょっとした会話が増えてきているように思われる。更に和が保てる関係作りに努めていく。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、本人を訪問したり、関係者に情報をもらったりして経過をフォローできるように努めている。一時的な入院後の相談や施設等の連絡調整にも応じており、関係を継続していけるよう支援している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のケアの中で、言動や表情の中から、その真意を伺い、確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族にも情報を得るようにしている。更に、一人一人の意見を反映できるように表情やしぐさなど汲み取るように努めている。	
			(外部評価) センター方式のアセスメント表を用いて、ご家族の来訪時には、見ていただきながらご家族からも情報を集めておられる。利用者の変化や気になることは、申し送りノートに記入し、職員で共有されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 部屋になじみのタンスや椅子などを持ってきていただき、家で生活していた環境と同じように安心して生活できるように努めている。また、家族の写真や手紙など部屋に飾ることにより、安定した生活を図っている。本人や家族、医師(情報提供・意見書・看護介護要約等)からの情報の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間の生活リズムと日々の変化を把握し、出来ること出来ないことシートを活用し現状の把握に努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとのカンファレンス、3~6ヶ月ごとのモニタリング、変化があるときの見直しを行っている。本人家族、主治医、職員の意見や情報を取り入れるように努めている。職員全員での話し合い・介護計画の作成を行っている。	
			(外部評価) 介護計画は「利用者ご本人が望んでいること」を目標に掲げて、ご家族の希望もお聞きしながら作成されている。又、3ヶ月毎に職員全員で話し合い、計画を見直しおられ、又、状態変化があれば、その都度見直すようにされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画に基づいた日々の個別記録に努めている。情報共有の徹底のため重要事項は伝達簿も活用している。これらを介護計画の見直や実践に活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 遠距離利用者の場合、利用料金の郵送（本来は毎月支払いに来て頂く）、他科受診の介助、衣類の購入等も対応し、既存のサービスに捉われない支援に取り組んでいる。買い物、外出、ドライブ、散歩、デイサービス合同レク等一人一人のニーズに応えられる多機能化に取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 小学校や保育園との交流、地域の店や自然・行事等楽しむことで協力を図っている。(神社・教会・浜辺・夏祭り・花火・いのこ・秋祭り・スーパー・個人の店等)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望・要望を重視し、必要に 応じた病院の受診に努めている。協力医療機 関として福角病院、米田歯科（必要時往診 又は受診）があり、月1回の訪問診療と必 要時、受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 現在、利用者やご家族の希望で、協力医 療機関で診てもらっている。専門医の受診 は、ご家族が付き添うようになっているが、 ご家族の都合に合わせて職員が同行するこ ともある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健 康管理や、状態変化に応じた支援を行える ようにしている。24時間体制で小規模多機 能施設内の看護職員と連絡を取れるように しており、個々の利用者が適切な受診や看 護を受けられるようにしている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された際には、情報提供を行い、入 院後は病状を把握できるよう面会や連絡を とるようにしている。早期退院に向けて、 主治医、病院関係者と密に情報交換し、家 族との調整も行っている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末に対する見取りの指針を定め、事業所 が対応しえる最大のケアに努めている。本 人・家族の希望を重視し、主治医と密に 連絡を取りながら方針を共有し事業所で できることを行っている。	さらに、重度化・終末期の支援について、 ご本人の思い等をお聞きしたり、ご家族 の意向に沿った支援に取り組むことが できるよう、設備面や職員の体制等につ いても具体的に話し合われてみてはど うだろうか。又、ご家族の心配なこと や不安に思うこと等についても、聞き 取る機会を作ってほしい。
			(外部評価) 利用者、ご家族の中には「最期までこ こで」と、希望される方もありますが、 現在は、事業所の浴室での入浴介助が むづかしくなったり、介助の必要な方 が多くなると、ご家族と相談して、法 人内の介護施設に移ることが多いよう である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故に備えて救急法やAEDの講習を受けている。心肺蘇生法のポスターを目に付きやすいところに掲示して復習している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を消防署より来て頂き年に2回実施している。利用者・家族・職員・運営推進会議の地域の方に参加を呼びかけ参加していただいている。また運営推進会議などのときに防災について話し合いをし、環境面・協力体制など連携を図っている。地震対応マニュアルは作成中である。スロープの設置には至っていない。	
			(外部評価) 運営推進会議時、地域の方やご家族にも参加いただき、避難訓練を実施された。夜間、台所からの火災を想定して、夜勤職員と宿直の方の2名体制で、通報から避難が終了するまでにかかる時間等も計られた。ご家族からは「動きがテキパキしていてよかった」「訓練を見てとても安心できたが、本当の火災時はみんな動揺すると思う」等の感想をいただいた。消防署の方には、消火器の使い方を教えていただいたり、消防設備の業者の方には、事業所の消火栓の使い方等を教えていただいた。事業所玄関からの避難は段差があるため、併設のデイサービスに向けて避難するようになっている。	現在、地震発生時の対応マニュアルを作成中である。事業所では今後、地震や津波を想定した訓練を行っていきたく考えておられる。利用者の避難経路についても、利用者がより安全を確保できる方策について検討を重ねていかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報保護、プライバシーの保護について、方針を掲示し、常に意識できるようにしている。十分な説明を行い、同意書を頂いている」。丁寧な言葉かけをし、職員同士の会話においても十分注意している。	
			(外部評価) 職員は、利用者に「笑顔で接する」ことを心がけておられる。又、利用者が呼ばれ慣れている呼び方でご本人をお呼びしたり、馴染みの方言で言葉を掛ける等「家族のような関係づくり」を大切にされている。調査訪問時、利用者のお部屋に職員が入る時にはノックをしておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけし、あせらさないで、本音をできるだけ言えるよう配慮している。意思表示が困難な方には表情や個人を知ることできみ取れるよう努めている。日常、些細なことでも本人が決めるようにしている。(食べ物・衣類・居場所)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 今までの生活習慣や一人一人の体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを重視し、他者との関係や、全体の状況を踏まえた上でできるだけ柔軟に対応している。一人ひとりの個性やペースを大切に支援を心がけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みや似合うものを選び、身だしなみや、おしゃれに無関心にならないように、手洗い時、起床時や入浴後など鏡も利用して、身だしなみ、おしゃれを楽しんでいただいている。カットや、爪きり等にも配慮している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫したり、買い物に行ったり、準備や片付けも一緒に行い会話をしながら食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) 事業所の畑で作っている野菜を利用者と一緒に収穫し、調理されている。利用者は食材の皮をむいたり、食器を洗ったり、拭いたり、できることを無理なく行えるよう支援されている。誕生日には、利用者のお好きなメニューを作りお祝いされている。又、朝食は、白飯、お粥、パンと主食を選べるようになっている。調査訪問時には、畑で収穫したミニトマトを氷を入れた器に乗せて出してもらった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 10時15時にはおやつ時間を設けている。また随時水分摂取等を行なっている。栄養摂取状況においては個人ファイルに摂取量を記入している。また必要に応じて水分チェックも行なっている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯みがき等の声かけを行い、職員が見守り、必要時介助を行なっている。就前に義歯をはずしボリデントにて洗浄を行なっている。食事前にも出来るだけうがい等行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	それぞれの残存能力や状態を考慮しながら、オムツに頼ってしまわないようできるだけトイレでの排泄を促している。トイレの訴えのない利用者にも、時間を見計らって誘導している。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	水分補給や食事やおやつなどに乳製品を取り入れるなど、便秘予防に努めている。出来るだけ自然に排泄が出来るように心がけているが、必要時には下剤や浣腸等の指示を受け対応している。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	その日の利用者の希望や、体調を考慮し入浴を行なっている。一人一人の要望、状態、タイミング、湯の温度、入浴剤等好みに合わせて、気持ちよく入浴を楽しんでいただいている。(夜間帯はスタッフ不足のため出来ない。曜日は関係なく2~3・4日に1回、必要時連日も可)	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	日中の活動を検討し生活のリズムを整えている。今までの習慣を考慮し、一人一人に合った、休息や睡眠を支援している。また室温、照明等も、個々に合わせている。安心できる会話、ホットミルク、マッサージ、足浴、必要時眠剤を服用している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを作成している。誤飲、飲み忘れなどないように、服薬する際には必ず最低3回の確認をしている。特に処変時等は状態の変化の確認、記録、報告に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食後のコーヒーを飲む、新聞、本を読む、テレビを観る、好みの物を買う、手遊びをして過ごす、食事の準備、洗濯物たたみ、散歩、ドライブ等一人一人に応じて支援している。強制や負担にならないよう、本人の気持ちを重視して対応するよう努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望や必要、天候や状況に応じ、季節や外気を肌で感じていただけるように、野菜の収穫、日光浴、花や夕陽を見る、風に当たる、散歩、ドライブ、買い物等支援している。お墓参り、薔薇園、道の駅、県外の兄弟宅等関係者の協力を得て外出している。	
			(外部評価) 外出を嫌がられる方には、ご家族と相談しながら、支援されている。食材の買い物に職員と出かけ、ご自分のおやつを選んで買われる方もある。テレビ等の情報から利用者の希望で、バラやアジサイを見に行かれることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在はほとんどの方が事務所で職員が管理している。数千円自己管理されている方もおられる。外出時には利用者の方に渡し、払っていただけるよう工夫したりしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望や必要に応じて電話をしたり手紙を書いたりしていただいている。家族との関係がよりよいものとなるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関やリビングなどは季節感を感じていただけるよう花などを飾っている。日勤帯・夜勤帯で掃除を分担、汚れたらその都度こまめに掃除し、清潔で快適に生活していただけるよう努めている。冷暖房、照明、消臭、換気等、工夫調整している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の壁には、利用者と出かけた際の写真を大きく伸ばして飾っておられた。テーブルは利用者の状態や関係等も時々見ながら、配置換えをされるようだ。テレビがつけっぱなしになっているようなこともあるようで、今後、テレビの見方等についても点検や検討をしていきたいと管理者は話しておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関にベンチ、中庭にウッドデッキ、リビングにソファなどくつろげる空間を作っている。花や写真、置物、本などを置き、居心地のよい空間作りに努めている。また車椅子も動きやすいよう、家具等の配置を考慮している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>出来る限り本人の好みや馴染みのものを持ってきていただき、居心地よく過ごせるように努めている。また、家族の写真や陶芸や書道等の自作の物を飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>併設のデイサービスで作った習字作品の中で、気に入った作品を飾っておられたり、陶芸作品もあった。好きなテレビ番組を部屋で楽しめる方もある。入浴時には、ご自分がタンスから着替えを準備する方もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各々、出来ること出来ないことを随時見極め、状況にあわせて環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた場合、その都度職員と話し合い、不安や迷いを取り除き安全で安心して出来るだけ自立した暮らしが出来るよう努めている。</p>	